

2023年度業務実績報告書

提出日 2024年 1月 16日

1. 職名・氏名 准教授・渡邊浩一

2. 学位 学位 人間・環境学、専門分野 哲学、授与機関 京都大学、授与年 2011年

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習	
①担当科目名（単位数）	配当年次
哲学（2単位）	1
②内容・ねらい 哲学について特段の予備知識がなく、また今後専攻するわけでもない（とくに1・2年次）の各学部学生を対象に、2023年度は内容を一新して、古代から現代の西洋の哲学者たちの学的な自己表現に学びつつ、参加者がそれぞれ自らの世界観・人生観を言語化できるようになることを目標とした授業を試みた。	
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 講義は教科書および原典（翻訳）引用に準拠し、プラトン以来の「アイデア／観念」概念の変遷を軸とする。同時に詩・対話篇・討論・エッセイなど哲学者ごとのさまざまな表現スタイルにもフォーカスし、期末レポートで「2～14回目の授業で扱った哲学者の哲学スタイルを参考に、自分の思想・世界観を自由に表現すること」という課題を（選択肢として）出すことで、学生の自己表現を促している。	
①担当科目名（単位数）	配当年次
倫理学（2単位）	1
②内容・ねらい 学生がそれぞれ自身の持ち合わせている価値観・規範意識への気づきを得ることができるよう、アリストテレス以来の倫理学の基礎理論と現代社会のさまざまな問題を順次とりあげながら、毎回参加者がモラル・ジレンマに直面するような各種課題を提示し、究極的には「よく生きる」ことの意義の受け取り直しに資するよう、教室空間・課題・全体の内容を構成している。	
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 内容面では倫理学の基礎理論と現代社会の諸問題をバランスよく配置するよう心がけている。学生が自ら考えずにはいられないような問い・課題を提示するとともに、その取り組み内容を参加者へのフィードバックに留意している。授業形態は対面がベストであるが、2022年度から参加者の事情を加味してハイフレックス方式で実施している。	
①担当科目名（単位数）	配当年次
西洋思想（2単位）	1
②内容・ねらい 自由人の学芸（リベラルアーツ）は、西洋の大学の基礎教育課程を成すものであり、内容面では「自由」を根幹とする西洋の人間観・学問観をよく体現するものと言えるが、言葉として用いられるほど実際には知られていない。そこでこの授業では、古典的リベラルアーツの理念・カリキュラムの内実を有力なテキストに即してつぶさに確認することを試みている。	
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 スライドと資料に即した説明を学生がそれぞれ工夫してノートテイクすることを課題として位置づけた。説明に際して中心となるのは自由七科のテキストであるが、その社会的・歴史的ふくらみを体感できるよう、視聴覚資料も可能な限り併用することを心がけている。	

①担当科目名 教養特講A (哲学/映画)	(単位数) (2単位)	配当年次 1
②内容・ねらい アメリカの哲学者スタンリー・カヴェル (1926-2018) の映画論『幸福の追求』をテキストとして、そこでとりあげられている7作品を視聴するとともに、著者の議論について検討した。映画を単に冒頭から最後まで観るのではなく、いわば「読む」という体験を、それを実践しているカヴェルの議論の即しつつ学生に感じ取らせることをねらいとしている。		
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 小浜キャンパスの2年生以上をメインターゲットとした授業であり、隔週で小浜キャンパスで対面実施 (それ以外のキャンパスの学生は Zoom 参加) という形をとった。2コマ連続で、前半は作品の視聴、後半はテキストに即した読解・参加者間の議論という方式で進めた。		
①担当科目名 (単位数) 導入ゼミ (2単位)	配当年次 1	
②内容・ねらい 「身にする読書」と題して、新書 (廣野由美子『批評理論入門』) を教科書指定し、参加者それぞれが担当章について①レジュメないしスライドづくり、②狙いをもった文章作成、③レジュメ・作文に即した議論を行えるよう内容を構成した。		
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 昨年度の取り組みを踏まえつつ、改めてできるだけ早い段階での「大学生としての独り立ち」をテーマに、少し難度の高い文献購読に関わる課題に取り組みさせた。上記①の発表に対しては、参加者からのコメント内容をそれぞれがA4一枚程度にまとめ、それを踏まえて教員と個別に面談する形でフィードバックを行った。		
①担当科目名 (単位数) 教養ゼミ (2単位)	配当年次 1	
②内容・ねらい 今年度は「弁論家になりたい!？」と題して、①古典的な弁論術理論を踏まえて弁論原稿を作成できる、②作成した原稿を聴衆を意識した仕方を実演できる、③他の参加者の弁論に聴衆として参加できる、を狙いとした授業を試みた。(昨年度の「雑誌をつくる」から、予算等を勘案して改訂。)		
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 昨年度の「雑誌をつくる」は50名超の大所帯となったが、一転して今年度は15名とコンパクトなサイズになった。授業では西洋の修辞学・弁論術や近現代の演説・スピーチを範として原稿を作成するとともに、実演の練習にあたっては県内のアマチュア劇団・劇団福井自由舞台の団員の方に発声指導をあおいだ。		
【ゲストスピーカー 2人】		
①担当科目名 (単位数) 学術ゼミ (2単位)	配当年次 2	
②内容・ねらい 参加者間で相談の上、広く哲学・思想に関わる古典的名著を各学期1冊選択し、講読・精読する。講読にあたって学生は事前にテキストに目を通し、授業の場で自身の見解を述べるとともに、参加者間で議論し、読解を深め、考えを練り上げていけるようになることがねらいである。		

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

前期はマルクス・アウレリウス『自省録』（履修者25名+留学生3名）、後期は『創世記』（履修者11名）を講読することとなった。受講生は、哲学書はもちろん、そもそも読書経験があまりないため、書籍は専門用語など前提知識をそれほど要しないものをあらかじめ選定し、また講読にあたっては学生の経験・意見とテキストの接点が見つかるような発問を心がけている。

前期は履修者数を踏まえてアクティブラーニング教室を使用することとなった。

①担当科目名 (単位数) 配当年次
教養特講 I (研究の世界) (2単位) 1 *オムニバスのうちの1回

②内容・ねらい

学術教養センターの教員がそれぞれの研究テーマについて語るオムニバス授業のうち1回（第2回）において、「自由学芸（リベラルアーツ）事始」というタイトルで自身の教育研究の関心の変遷を語った。現在の関心がリベラルアーツにあるため、結果として、大学の一般教育科目の歴史を概説し、その意義について学生自身に考えさせるような組み立てとなっている。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

現状、一般教育カリキュラムの歴史や意義について詳説する正課科目がないことから、情報量は多くなるが、大学やリベラルアーツの歴史をできるだけ丁寧に紹介することを心がけた。また、同時に、参加者がそれぞれ自身の大学での学びと結びつけて考えられるような授業課題を設定した。

(2)その他の教育活動

上記「教養ゼミ」においてゲストスピーカーとして県内のアマチュア劇団「劇団福井自由舞台」の団員2名による発声指導を実施（12/20）。

4. 研究業績

(1)研究業績の公表	
①著書 佐藤義之・松枝啓至・渡邊浩一 [編] 『観念説と観念論 アイデアの近代哲学史』、ナカニシヤ出版、 2023年【共編著、執筆担当：まえがき、序章、第7章】	【1本】
②学術論文（査読あり）	【0本】
③その他論文（査読なし）	【0本】
④学会発表等 渡邊浩一「書かせて、考えさせる一般教育の哲学」、日本現象学会 第45回研究大会 男女共同 参画・若手研究者支援 WG ワークショップ 「教養としての哲学・現象学——初期キャリア 研究者が何をどう教えるか」 2023年10月29日【招待あり】	【1件】
⑤その他の公表実績 日本18世紀学会 啓蒙思想の百科事典編集委員会 [編] 『啓蒙思想の百科事典』、丸善出版、 2023年【編集委員】 萩原広道ほか [編] 『〈京大発〉専門分野の越え方 対話から生まれる学際探求』、ナカニシヤ 出版、2023年【「総人のミカタ」へのコメント (p. 140)】	【2本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績	
(3)特許等取得	
(4)学会活動等	
日本18世紀学会 ハラスメント相談担当委員（2021年6月～）	

5. 地域・社会貢献活動

①-4

国立病院機構 あわら病院 臨床研究審査委員会委員

日時 2023年8月17日(木)、10月12日(木)、12月21日(木)

⑥

・福井県立大学公開講座／私が考える「民主主義」 第2回 哲学者は民主主義が嫌い？

Zoom／2023年8月2日(水) 20:00～21:00

・高校生・市民向け哲学講座／第1回 哲学やろっさ「哲学ってなんだろう？」／アオッサ／
2023年8月5日(土) 16時～18時

・高校生・市民向け哲学講座／第2回 哲学やろっさ「カント入門 『純粹理性批判』を読み齧る」／アオッサ／2023年11月23日(木・祝) 14時～16時

6. 大学運営への参画

(1)補職

(2)委員会・チーム活動

[全学]

時間割・共通科目検討協議会委員

[学術教養センター]

教務・カリキュラム委員

(3)学内行事への参加

福井県立大学オープンキャンパス第1弾／一般教育科目 模擬授業①②『近頃流行りのリベラルアーツ(西洋編／日本編)～大学で教養教育を学ぶ意味とは?～』／2023年7月16日(日)

(4)その他、自発的活動など